

会議の概要（議事録）

会 議 の 名 称	(番号) 1-38	令和7年度第2回 墨田区図書館運営協議会		
開 催 日 時	令和7年11月16日（日） 午後2時00分から午後4時00分まで			
開 催 場 所	墨田区立ひきふね図書館5階会議室			
出 席 者 数	【委 員】8名 日向 良和（会長）、今井 福司（副会長）、松塚 智加子 、金 豊子、 矢島 真理子、齊藤 宮子、津村 しづ恵、口中 常嘉 【事務局】 ひきふね図書館長、ひきふね図書館次長、緑図書館長、立花図書館長、 八広図書館長、ひきふね図書館担当職員2名			
会 議 の 公 開 （ 傍 聴 ）	公開(傍聴できる)	部分公開(部分傍聴できる)	傍聴者数	1人
議 事	議事第1 地域館（緑・立花・八広図書館）の指定管理期間満了に伴う、 今期の指定管理者への事業評価 議事第2 その他			
配 付 資 料	・ 次第 ・ 資料1 緑・立花・八広図書館の今期事業実績等について ・ 資料2 今期実績 ・ 資料3 アンケート結果			
会 議 概 要	・ 地域館（緑・立花・八広図書館）の現状への質疑 ・ 緑・立花・八広図書館長による、今期実績等の報告および委員からの質疑			
所 管 課	ひきふね図書館（電話：5655-2350）			

議事第 1「地域館（緑・立花・八広図書館）の指定管理期間満了に伴う、今期指定管理への事業評価」

・事務局

資料 1 から資料 3 を説明。

・日向会長

それでは、委員の皆様からご質問、ご意見ご感想など伺います。

・口中委員

総合評価が、令和 5 年から令和 6 年に急激にパーセントが落ちている。立花と八広ですが、これは何か意味があるか。

・事務局

八広図書館は大きく落ち込んでいるように見えるが、10 段階の評価の内訳を見ると、8、7 点の方が非常に多かった。NPS 値は、9、10 点の方と 1、2 点の方の差を比較する。図書館として 8 点は高評価と考えているが、8 点の方はこの評価に反映されず、大きく落ち込んでいるように見える。10 段階全体を見たときにはさほど変化はなかった。

立花図書館も減少が見られるが、昨年度は長期修繕等で閉館の期間が 3 か月程度あった。このことも、評価が下がった一因と考えている。

・日向会長

NPS は他区ではあまり採用されていない指標だが、本協議会では以前から使われている。「利用者が区の図書館を勧めるか否か」を見る意味で採用している指標で、単年度での上下よりは、全体でのプラスマイナスを見ていけばよい。以前も大きく下がった際に 8 点・7 点が多かったと話があった。今回も同じような説明なので、急に下がったから評判が悪くなったというものではない。「すごく良い」という評価をした人が減った、他の図書館と比べて「絶対行くべきだ」と強く勧める人が減っている。急に高くなる時は、新しい施設になったり新しいサービスを始めたりというとき。それが落ち着いて、普通のサービスになると NPS 値は落ちてくることはあるので、急にサービスが悪くなったわけではないと理解している。

・口中委員

それほど気にすることはないということか。

・日向会長

NPS がマイナスになると「ひどい」と評価した人が増えたことになるので良くない。プラスでいるうちは、それほど気にする必要はない。ただし、乱高下が多いのは好ましくはない。

・口中委員

安心していいか。

・ 日向会長

以前、令和元年度に八広図書館が急激に上がったが明確な理由はわからなかった。全体としてプラスになっていれば、数値の上下についてはあまり気にしなくてもいい。

・ 口中委員

ありがとうございました。

・ 日向会長

NPS より各サービスの評価に上下あるというのが気になる。

(アンケートを) 原則 WEB にしたことで、回答の傾向が変わるというのがよくある。紙で答えていた人が答えなくなり、WEB ならば答えるなど、答える層が入れ替わることがあるため、令和 4 年から令和 5 年で回答している人が変わっている可能性もあるので比較が難しいところではある。同じ人が、WEB になったから WEB で答えようと思ってくれればいいが、紙なら答えるけどスマホはめんどくさいと答えない人もいるため、影響するかもしれない。数値に対してはいかがか。

・ 津村委員

WEB の話があったが、このアンケートは利用者の方に対して行っている。図書館があるのは知っているが、来館しない人もいる。近隣に住んでいて利用していない人が、なぜ図書館に行かないのかも知りたい。

利用者を増やしたい気持ちがあるならば、利用していない人への質問項目もあった方が良いでしょう。

・ 森委員

その通り。

・ 津村委員

(NPS 値が) プラスでよかったというのはグラフで分かるが、図書館を利用していない人はどうなのか、裾野を広げるという意味で項目があるといいのでは。

・ 日向会長

今後のアンケートの設計が議題ではないが、非常に重要な視点なので、来年度以降の設問設計で検討を。杉並区は利用の有無に関係なく「図書館についてご意見ください」となっていて、「あなたは月に何回くらい図書館を使っていますか」という設問がある。「使っていない」、「知らない」といった選択肢もある。そういった設問を設けた上で、最後に使わない理由や自由意見で「知らなかった」という回答があったと聞いたことがあるので、WEB にする

場合にはそういった工夫もできると思う。

・ **津村委員**

今期催し物実績に3館連携というのがあるが、ひきふね以外の3館でやる理由はあるのか。

・ **事務局**

ひきふね図書館は区直営の図書館で、緑・立花・八広の3館は指定管理者の運営という違いが一つと、3館まとめて1指定管理者を募集しているということもあり、3館一体となった運営をしていただきたいとも考えている。

・ **津村委員**

3館の方はよく連携が取れるというか、繋がりやすいということか。

・ **事務局**

3館で1事業者のため、連携は取りやすい。

・ **日向会長**

資料3 アンケートの読書案内、レファレンスサービス等について令和5年から令和6年度の八広図書館の満足度が下がっているように見えるが、思いつく理由はあるか。

・ **八広図書館長**

アンケートの回答方法が紙からWEB推進になった。八広図書館の利用者は高齢者が多く、紙で回答いただいていた利用者がアンケートに参加していないのだろうと考えている。

・ **日向会長**

レファレンスサービスの数が減ったわけではないのか。

・ **八広図書館長**

多少減っているが、読書案内などは高齢者が多いということもあって、高齢者に向けた展示コーナーもあり、おおむね評価はいただいている。

・ **日向会長**

レファレンスサービスや貸出冊数が全体として数が減る、人口は増えているのに本が出ていかず、館内で過ごす人が増えている。これは全国的な傾向で、以前は「貸出冊数が増えれば良い。」「人口一人当たりの貸出冊数が多ければいい。」という考えもあったが、本を借りること自体が全体的に減っている。館内で本を読んでいる人はいるが、全然貸出は増えないという現象があるので、レファレンスサービスが減っていくというのは気になる。レファレンスサービスは他区でも減っている。Googleなどスマホで聞けるため、図書館で聞く必要がないと利用者の方が感じているので、今後厳しいかもしれない。「わざわざ図書館で図書館員に聞くほどのこと」というのが一生のうちに

何回あるのかと。一生のうちの何回かある人が、「図書館に行けば分かる」というのをどのくらい知っているのかと感ずることがある。

・ **口中委員**

指定管理者管理期間の1期2期とあるが、これは（事業者は）変わっているのか。

・ **事務局**

同じである。

・ **齊藤委員**

今期の催物実績のうち障害者・高齢者向けについて、緑図書館が事業数1で実績等が0なのは理由があるのか。他の館は参加者人数がいる。回数は多くできないと思うが10回程度の館もある。館や地域によって住んでいる障害者の方も違うので一概に比べるのは難しいが、昨年度0、今年度も9月まで0というのは、南部の障害者サービスがどうなっているのか気になる。

・ **緑図書館長**

コロナ禍から、障害者サービスを提携していた施設から「来ないでいただきたい」とお断りされている状態が続いているため、開催されていないという状況になっている。その後、新たな施設等への開拓をしていないので、今後検討したい。現状は、相手方から要望がない。

・ **齊藤委員**

本所地区の方は、福祉作業所が区の拠点になっているので、そちらにご相談し、図書館への来館アピール方法など、次年度に向けて検討いただきたい。緑図書館は障害者サービスの歴史があるのに引き継がれていないように感じてしまい、残念に思う。

・ **日向会長**

コロナで施設に行く、又は集団で来てもらうというのが、相手方の管理の都合上で難しいという事例はお聞きするが、他館で行っているところがある。図書館内で行うイベントや地域に合わせたのイベントを試行錯誤していただきたい。区の福祉部局との連携は、指定管理の方が直接行うのは難しいので、区職員が間に立って連携を取っていただけるとよい。

・ **今井副会長**

福祉施設からは少しの発熱でも「来ないで欲しい」と言われてしまい、コロナ禍以降はガードが硬くなった場合があると思われる。人が行けないのであれば、モノだけでもいいというケースもあるだろう。例えばブックリストやパスファインダー、本でもいい。その「モノ」だけでも出かけていくということができれば、きっかけになる方はいらっしゃると思う。人の連携はコストがか

かるので、モノの連携から図るという方法もある。

- ・ **日向会長**

次に、館別の運営方針やその結果について報告いただきたい。

- ・ **事務局**

各館の館長から運営方針や活動報告をいただく。

- ・ **緑図書館長**

スライド 5、今期催物実績について齊藤委員からご指摘のあったところだが、特徴的な部分として、子ども向け事業が令和 5 年度から 6 年度、約 2 倍近く実施している。これは墨田区子ども読書活動推進計画に協力したいということで、週 1 回だったお話をほぼ平日毎日開催した結果である。引き続き今年度も実施しており、昨年度と同等数になると思われる。学校連携も令和 5 年から令和 6 年にかけて増えているが、これは小学校に出向き、小学校 2 年～5 年生のクラスに対し図書館を使った調べる学習について話をさせてもらったため。令和 7 年度も実施しているので、同様の人数で後半増えると思われる。

続いてスライド 9、緑図書館の運営方針は、さまざまな層の方が利用しやすい「誰一人取り残さない」図書館を掲げている。(委員から意見のあった) 障害者の方の部分が少し取り残し気味ではあるので、次年度以降何か模索し対応していければと考えている。また、マイファースト図書館として親しみを持ってもらえるように、乳幼児の方へのお話会、小学校との連携を努力してきた。

すみだ文化講座では「落語会」を開催したほか、すみだ北斎美術館の方を講師に、蔦屋重三郎のお話をしていただいた。また、日本相撲協会の方と連携し、番付表や、星取表を毎日更新しながら毎場所、展示している。フウガドールすみだとも連携し、ポスターを貼ったり、インタビュー記事を作ったり、今月と来月は新しい取組として 3 館とフウガドールすみだとの連携でパブリックビューイングを図書館で行う。資料には、目標数値とその結果を記載しているが、来館者数に関しては令和 5 年度、6 年度、おそらく 7 年度も目標を超えると思われる。来館者数は増えている。中学生、高校生が学習のために午後から来館し、40 名超の学習席が埋まるくらい学生の方が来ているが、貸出点数の欄は、目標数値に対して少し右肩下がりをしている。全国的な部分であり、たくさん本を置いても目がいかに勉強のために図書館を利用しているので、展示などの工夫もしているがこの部分は難しいと感じている。イベント・行事の写真について、左上から紹介する。ボランティアの方による小さな子ども向けのお話会。10 組 20 人程度の方が月 1 回の開催に来

てくれる。隣が小学生の一日図書館員の写真。右がぬいぐるみお泊り会の写真。左下が、まちかどコンサート。新日本フィルハーモニー交響楽団の方をお願いし、まちかどコンサートを実施している。中央が、文化講座で落語をお願いした回。右が齊藤委員にもご協力いただいた「カニを使って点字をしましょう」。特集の展示は、上段が子どもの絵本特集。こちらは貸出の数が多
い。下が、忠臣蔵の文字があるが、一般展示・地域展示。上が3館連携企画で左がフウガドールで、フウガドールの説明などもある。右側が今年度実施したすみだゆかりの作家作品で、すみだゆかりの方はどのような方いるか等のアンケート。

最後に、スライド15の自己評価（今期の成果等と課題、改善点）について。成果等に関して、お話会を毎日やるようになり、保護者の方にも認知いただき来館が増えた。また、小学校への調べる学習の出張授業が調べる学習の推進と啓発に貢献できていると考えている。課題・改善点は、実績の新規登録が経年で見ると右肩下がりになっている。墨田区の人口が右肩上がりなので、南部の図書館は新規登録が伸びない形になっている。また、返却館方式という方式でやっているの、来館者が多いと本が溜まる傾向があるが、図書館の大きさに対して本が溜まってしまうので、図書館の貸出に貢献できるように考えていきたい。

・日向会長

次に立花図書館の報告をいただきたい。

・立花図書館長

スライド5、今期催物実績について。緑図書館同様、子ども向けお話会の数は、立花の場合は共働きの方が多く、平日に小さな子どもを連れてくることが少ないため、土曜日に1回行っていたお話会を午前・午後の2回に増やした。また、今期はボランティアの協力を得ずに職員だけで行ってきたが、直近はボランティアの方に手伝っていただき、ここ2か月くらいで内容の質が良くなってきていると感じている。

障害者の方は、立花だけがコロナ禍以降数が増えているように見えるが、立花図書館の隣接に障害者施設の「さんさんプラザ」があり、コロナ禍以降も本を持って行って、その場で月に1回貸出をする。また、障害者の方のタイミングが合った時に図書館に来ていただき、幼児コーナーなどで大人の方にも絵本を見ていただくということをいち早く行っていた関係もあり、定期的に数が増えていると思われる。

学校連携は、近隣の「都立橘高校」の司書教諭と4年程前から連携を取っている。学年集会にお招きいただき、体育館で1学年に図書館の利用推進に

についてお伝えできる機会があり、100～200 人を対象に話をするので、（令和 6 年度の参加）人数が急激に増えている。それ以外にも、橘高校の保育士を目指す生徒や、介護士を目指す生徒に対して読み聞かせの講座を行うなど連携している。なお、先生が異動になると状況が変わる可能性がある点が課題になっている。

スライド 11 の立花図書館の運営方針については、立花図書館は東あずま、小村井、平井辺りの地域館であり、利用者の方は地域に住んでいる方が多いため、子育て世帯、小・中学生、高校生、高齢者と幅広い世代に利用される図書館。また、小学生に対する子ども読書活動推進計画の一環である今期の取組として、教育委員会地域教育支援課埋蔵文化財担当から埋蔵文化財の実物を置かせてもらえるという話があり、展示コーナーを作った。埋蔵文化財担当から「夏休みの子ども向けに」ということで、「泥めんこ」をカウンターに展示させてもらった。課題は、中学生・高校生の利用が少ないことだったが、座席数を増やし、雑誌コーナーにも勉強ができる座席を増やした。今年 1～3 月の長期修繕工事後から認知度が上がり、直近では土日は席が 8 割程埋まっている。平日も夕方から中高生がグループで来館し、利用構造が変わってきている。高齢者の方がいて、中高生、子ども連れが横に並んでいるような感じで、大きなトラブルもなく、いい傾向と捉えている。

続いてスライド 12。目標数値は、令和 7 年 1 月～3 月が大規模改修で、図書の貸出返却のみだったこともあり目標を低めに設定していたが、全体的に対 4 年度と比較するとやや微減程度になっている。目標達成は出来ているが、やや下がり傾向である。イベントの写真では、学校連携を強めるために近隣の千葉大学墨田キャンパスから教授などに協力いただき、認知症をテーマに講座を開催。応募が多く、利用者の声に「もうちょっと専門的な話を聞きたかった」とあり、認知症は資料の貸出も多いので、強化を検討している。下の写真は、橘高校の図書室で授業を年に 2 回程、読み聞かせの講座を実施。中央は、子ども向けのイベントで、小学校の「まち探検」。近隣の幼稚園や保育園の散歩コースに入れていただき、図書館での読み聞かせを月に 3～4 回開催している。特に幼稚園は保護者会を図書館で行い、図書館の利用方法を保護者の方に説明し終わったところに子どもたちが幼稚園から先生と一緒に来館、絵本の読み聞かせをするという形態をコロナ禍明けの去年から再開している。今年は概ね好評で、来年以降も要望がある。立花図書館の弱点としては、イベントを行う大きなホールがないことである。隣の高齢者施設「立花ゆうゆう館」のホールで、立花ゆうゆう館と共催で「まちかどコンサート」を今月 29 日に初めて実施する。募集開始後 2 日間で定員が埋まった。

立花では今後新たに高齢者や中高生が求めるイベントを開催していきたい。近隣の幼稚園、保育園、小学校に重点を置いて小さい頃から図書館に馴染んでもらい、中学生や高校生にはなるべく勉強で使ってもらい、地域に根差した図書館を目指していきたいと思っている。課題は、最近よく感じていることだが、中国籍の方が多く、保護者は多少（日本語を）話せるが祖父母世代になるとほとんど日本語が話せず、子どもが通訳する光景を図書館でよく見かけるようになった。中国圏、アジア圏の蔵書を増やしていきたいと思っている。多言語イベントが立花で出来ていないので、その辺りが課題だと感じている。

・ 日向会長

それでは最後に八広図書館から報告いただきたい。

・ 八広図書館長

スライド5の今期催物実績から。子ども向けお話し会は八広も毎日出来ればいいが、利用者の半分以上が高齢者であり、また近隣に保育園が多いことから、日中お子さんを預けているご家庭が多く、平日の昼間は子どもの利用があまりない。土曜日はお話し会を実施し、日曜日にイベントなどを実施しているので、土日はお話し会は出来るが、平日はなかなか子どもが集まらない。今は近くの保育園の団体利用の際に図書館員が必ずお話し会をするようにしており、来館回数が月2回程から倍くらいに増え、色々な保育園が来館するようになっている。八広図書館としては、個人のお客様を集めるのが難しいため、保育園が来館した際「図書館スタッフがお話し会をします」と声かけし、かなり好評になっている。高齢者と障害者の方は、八広もコロナ禍の影響で高齢者施設には出張できていないが、ミドル&シニアブックリストという高齢者向けのブックリストを作り、好評いただいている。本の紹介だけでなく、川柳を募集するなどマガジンのようなので、とても好評で出張が中止になっている高齢者施設3~4施設にもお届けしている。活動しているように見えるが、出張お話し会としては施設の方から「来ないでほしい」と言われている。その他事業にはイベントの数しか入っておらず、毎月10件程、館内展示をしているが件数に入れていなかったため少なく見える。来年度からは展示も件数に入れる予定。

八広図書館の運営方針は、八広図書館の特徴として多目的ルームという施設があり、区民の方々が交流できる場として活用いただいております。また地域性にあった資料や情報提供など、地域に寄り添った図書館運営を目指している。八広図書館の周辺は三世代で住む家庭が多いので、孫世代と祖父母世代が共存しているという特徴を意識した展示や企画を行っている。特に、60歳

以上のミドル&シニア層は利用者全体の半分以上を占めているため、生涯学習の拠点として読書活動の支援に力を入れているところ。

写真と八広図書館の目標数値だが、令和7年度が12月から大規模修繕工事に入るため、来館者数を低く見積もってしまい、すでに86%に達成している。イベントや多目的ルームがあるので、来館者数は増えている。コロナ禍で一旦落ち込んだが、今はコロナ禍前を超えるくらい来館者数がある。しかし、貸出点数では高齢者は1度に持ち運べる数が限られてしまい、1人当たりの貸出冊数が減る。また、孫世代と高齢者世代は多いが、中間層である「本を最大数の20冊借りる層」が少ないため貸出点数は微減している。改善できるよう、日々スタッフで話し合い、努力をしている。写真は、3館連携の取組として作成した郷土のブックリスト「ぐるぐるすみだ」の略「ぐるすみ」。墨田区の持つ、今と昔、現代と伝統が共存している魅力を区民の方にも発信できるように来年度までの3年間実施予定。昨年度が名所編でVOL.1、今年度は、(墨田区)ゆかりの人物編を作成し、ひきふね図書館を含めて4館で配布中。ぐるすみの隣のガラスケースは3館連携のすみだの産業にまつわる展示で内容は各館異なる。八広図書館は区の産業振興課にご協力いただき、すみだのモノづくりブランドである「すみだモダン」をガラスケース展示している。2か月に1度入れ替え、様々なモノづくりを区民の方に紹介している。イベント行事、区内にある「レイクランド大学の学生による英語のお話会」を年に数回開催。言語の習得に最適な臨界期である5〜9歳を対象に小さいうちから本物の英語に触れるということにこだわり、ネイティブスピーカーの発語を聞いてもらう為、区内にあるレイクランド大学のネイティブスピーカーの方に協力していただいている。この方たちは日本語もわかるが、お話会中は、日本語は一切しゃべらないという約束で、子どもたちには英語しか話せないと言って接していただく。子どもは、何度も聞くうちに理解し、最後の方はコミュニケーションをとって英語の遊びをしていた。これは2020年から小学校の英語教育必修化に伴い、保護者から要望があり開催した。隣はプログラミング講座。2020年から小学校で始まったプログラミング授業を受けて、図書館でもその支援をしようとプログラミング講座を実施。実際に、Androidを搭載したロボットを動かすなど、楽しみながらプログラミングを学んでもらう講座。ガチャガチャは子どもの活字離れ、読書離れを受けて図書館に来るきっかけになればと思い、秋の読書週間に毎年行っている「本を借りてガチャガチャを回そう」というイベント。ガチャガチャの中にプレゼントとオススメ本の紹介カードが入っており、その本を借りて帰ることもできる。1日1回しかできないため、連日来館し、「中に入っているオ

ススめ本を借りたよ」と言う子どももいて、とても好評で毎年実施している。また、児童向けのブックリストはあるが、高齢者向けのブックリストは置いてない図書館が多いので、利用者の半分以上が高齢者である八広図書館で作ろうとなった。マガジンのようになっていて、本の紹介だけでなく、楽しんで読んでいただけるようになっている。高齢者にとっても好評で、ホームページに載せると「ホームページ見たんだけど」と声をかけてもらえ、高齢者の方が借りに来る。八広図書館には常設で「いきがいコーナー」という高齢者向けのコーナーがあり、そこには「とくとく」（ブックリスト）で紹介している本が全てあり、そこが八広図書館で一番貸出が多いコーナーで、高齢者の読書活動の支援になっていると考えている。下は、両国生まれの落語家、林家あんこさんの落語会。同じく墨田区生まれの五街道雲助氏が名誉区民に選ばれたことを記念して落語企画を開催、その一つとして実施した。あんこさんは墨田区の親善大使で墨田区での活動を所望されており、毎年やっていただけることになった。アンケートを取ると高齢者の方、利用者の大半の方から本物のプロの落語家による落語を見せてほしいという意見が多く、今年初めて開催して好評だったため、来年度以降も開催していきたい。その隣は、山口恵以子さんの講演会で、両国高校ご出身のすみだゆかりの作家ということでお招きした。隣は初めて高齢者のみを対象にしたイベント。（図書館利用者の）半分くらいは高齢者だが、高齢者のイベントは今まであまり実施していないため、60歳以上を対象にした「蓄音機講座」を開催した。江戸東京博物館に出張していただき、蓄音機で昭和初期から戦後の流行歌のレコードを聴くイベント。これまで多く高齢者施設に出張に行ってお話会をした際に、皆さん音楽を聴くことで記憶を取り戻したり、元気になったりというのを見ていたので開催した。当初45分のコンサートだったところ、延長に延長を重ね、2時間程開催。皆さん最後の方は大合唱し、楽しまれていた。最後に特集展示。地域展示として墨田落語の地図帳とあり、こちらも五街道雲助氏が名誉区民に選ばれたことを記念して掲示。すみだは落語の聖地とも言われるほど落語に登場する場所が多いので、江戸切絵図の本所深川の地図を使って、名所を紹介した落語の地図帳を作成した。「この話の場所はここ」と、本所と向島に分けて展示したところ大変好評で、展示も延長し、問い合わせも多かった。その下は、今年は昭和で数えると100年ということで100年間のベストセラー本を紹介、並べられるものは全て展示した。かなり好評だったので、こちらも延長した。

最後は、スライド15の自己評価。八広は多目的ホールがあるのでイベント時に毎回アンケートを取っており、その中で、要望のあったもの、ニーズの

高い企画や展示を今年度は何度か実施した。児童施設の団体利用時に図書館員が必ず読み聞かせをするという行いが、かなりの保育園にとっても好評だったようで、来館回数が増えたことが成果に繋がっている。先ほど紹介したシニア向けブックリスト「とくとく」は高齢者の読書活動支援にも役立っていて、今も高齢者施設には搬送便で届けている。八広図書館の課題・改善点はやはり小学、中学生の利用の減少。来館者数は増えているが、閲覧席を見ると土日は中学生・高校生は沢山いるが、なかなか貸出利用に繋がらない。どうしたら貸出に繋がるか、図書館利用に繋がるのかを日々模索している。

・ 日向会長

各館の館長より詳しい説明をいただいたが、何かご意見ご質問はあるか。

・ 津村委員

緑図書館の調べる学習の出張はどこに行っているのか。その学校の子が相談会に来た時に話せる。

・ 緑図書館長

外手小学校のみである。

・ 津村委員

もう一点、相撲巡業をロンドンで開催していた時に日本相撲協会の人が横川小に来て、相撲を披露した。凄く盛り上がり、相撲のことを知りたがった児童が大勢いた。学校で行っているオリンピック選手をお招きして、授業を行うときもオリンピックのことを知りたい子がいたので、学校の特別な出張授業をやったときに、それと連携した図書館の本の展示みたいなのがあった子どもたちもすごく食いつきがいいんじゃないかと思う。

・ 八広図書館長

今、地域展示は相撲をやっている。今は相撲部屋の地図が分かるようになっている。

・ 津村委員

その(児童の)熱がある時にちょうど展示があるといいかなと思う。

・ 日向会長

他にあるか。

・ 矢島委員

感想だが、本当にどこも限られたスペースの中でたくさんのイベントや展示の工夫をされていて、もっと足を運ばないと、という気持ちになった。

・ 日向会長

私も同様の感想を持っている。非常に限られたスペースの中で工夫し、幅広い方に向けて色々やられているなど私も感じている。

・ 齊藤委員

ちょっとこことはズレているが、(現在)デフリンピックを開催しているが、それに関しての特集展示というか、取り上げている館は有るか。ひきふね図書館も含めて。

・ 八広図書館長

デフリンピックの特集展示は行っていないが、障害者週間に備えたイベントはやっている。

・ 齊藤委員

東京都も力を入れているし、今、図書館で特集をやると、小学生などは学校でも学んでいる気がするので、食いつきがいいんじゃないかと思う。

・ 日向会長

私も駅でポスターを見た。パラリンピックとの違いなど「デフリンピックって何だろう」とかがあるとタイムリーでいいと思う。

・ 齊藤委員

今からでもやってくださると小・中学生あたりにはいいかなと。皆さんの取組を聞いていて思った。

・ 日向会長

TVCM とか WEB の CM とかでも結構ある。

・ 齊藤委員

ボランティアセンターに行くとデフリンピックのポスターがいっぱい貼ってあったが、図書館関係は盛り上がらないのかと。皆さんの取組が熱心にやられているので、タイムリーなところをキャッチしていただくと、もっと良くなるんじゃないかと思う。

・ 今井副会長

調べる学習を含めた取組を結構行っているということはあるがたいことで、私も審査に関わっているが、調べる学習コンクールで昨年度、墨田区の緑小学校の方が生物多様性で賞を受賞されているので、図書館を通じた取組が結実した証拠ということなので、それは図書館が出した成果の一つとして主張してもいいと思う。立花図書館の課題で、中華人民共和国出身の方の利用が増えているというのは子どものことかと思っていたが、どちらかというところと祖父母の世代、子どももちろん多いが、親御さん、または祖父母のところ利用が広がっているという話があった。

・ 立花図書館長

休日など一緒に来られる方、おじいさんとかと来た時におじいさんは日本語がしゃべれなくて、子どもが片言で両方しゃべり、気が付いたら図書館の

中にいた小学生が通訳を始めるといことがたまにある。立花幼稚園の保護者会を図書館で開催したときもお母さんが中国籍の方が2人居て、その方たちは、まだあまり日本語がしゃべれない方で、園長から「中国語の絵本ありますか」と質問があり、少しずつ増えているという印象がある。

・ **今井副会長**

資料として、てっきり立花図書館は子どもが多いので、子ども向けの外国語資料を入れればいいのかと錯覚してしまったが、どちらかというと全年代という感じか。それとも子どもの方に集中した方がいいか。

・ **立花図書館長**

今は子どもだと思うが、立花の場合は蔵書数が限られてしまい多言語の数も限られてくるので、潤沢に資料が置ける状態で、貸し出されると傾向が見えるかなと思う。

・ **日向会長**

他にあるか。他に、各館の館長から話したい点などはあるか。

・ **緑図書館長**

一点、調べた結果をお伝えしておきたい。(緑図書館の) 障害者サービスのカウンターの仕方を間違えていたようで、実は毎月1回「すみだふれあいセンター」に貸出だけを行っている。利用は4月から9月で、77人程。毎月1回行っており、そこで貸し出している。コロナ禍前は「同愛記念ホーム」、「老健すみだ秋光園」にも行っていたが「訪問しないで欲しい」と言われている。カウンターの仕方の部分で、貸出のみをカウントしていなかった。毎月スタッフが本と視聴覚資料を持って貸出に伺っているということだけ訂正する。

・ **日向会長**

ほかに、感想や意見はあるか。私の方では高齢者向けの「とくとく」という冊子や、「ぐるすみ」の企画は非常に他の自治体を見ても参考になる取組でぜひ広がってほしいし、重要な取組かと。図書館に来る高齢者の方は本を読んでいると思われるが、時間があるから来た場合、好きな作家さんもよく分からないし、子ども向けはいろんな本の紹介があるが、高齢者向けはあまりないということが課題になっているので、続けていただきたいし、充実させてほしい取組として、非常に共感できる。うちの大学でも本のガチャガチャをして、大学生も回すのが大好きで、当たりを入れて「当たると1冊多く借りられます」みたいなことで、「今度、金券入れるか」とか話している。金券というのは近くの書店さんで使える商品券を発行してもらって、「そこに行けば100円引きで本が買えますよ」のような。そういう連携をしてみたり

するが、結構人気。他の凄く狭いリソースを活かして最大限のサービスをしているので、非常に高く評価したい。他の委員の皆様も非常に好意的な評価だと思う。協議会としては非常に満足している評価だと考えている。課題の方はどちらかというと、先ほどの多言語サービスもそうだし、配本の問題とかも基本的には区全体で解決していかないといけない部分だと思う。全体的に貸出数が減るのは皆さん見るものが増えて、本だけ読んでるわけじゃないということはある。図書館に来る目的も多様化しているので、致し方ない。貸出を増やす取組は色々やっていただきたいが、数値目標としては結構厳しい目標にだんだんなっていくと思うので、WEBコンテンツや動画と連携した様々なコンテンツというのいいのかなと思う。課題のところを見ると各図書館、事業者さんの工夫で解決できるところは少ないと思う。是非、区全体の課題として取り組んで効率化とか適正化とか、緑図書館の方であった返却館方式による蔵書の増加というのも、上手く蔵書が動いていないというのも、区全体で見直していくべきかと。多言語サービスは、中国籍の方が目立ったようだが、他の言語の方もいるかもしれない。ただ、狭い図書館で沢山の言語を揃えるのは難しいので、「こんな本がありますよ」、「こういう言葉で読める本があります」という紹介で「必要でしたら取り寄せします」とか、「ひきふねの方にあります」とか紹介する形など区全体で様々な言語を、そもそもまず墨田区と近隣の区でどのような言語を話す方が多いのかを調査しながらやっていく必要があると感じた。多言語系のイベントをやると結構人が来るので、多言語系のイベントは先ほどの英語で行う読み聞かせみたいな感じで、〇〇語で行う読み聞かせみたいな。中高生は、どうやったら本を借りてくれるかは本当に悩みどころ。

・ 今井副会長

難しい点は、中高生は特定の本をみんなで見るということがなくなっていて、今は、こういうものが流行っているというやり方では全然読んでくれない。趣味の多様化ということで、趣向の多様化で「本来だったらこの世代はこれを知っているだろう」というのが全然通用しないのが中高生なので、リクエストとかを地味に見ていくしかないのか。中高生の方とコミュニケーションを取れるように図書館のほうで上手く仕掛けていくしかないのかなと思う。

・ 日向会長

全体のまとめは以上で良いか。では、今日の第1の議題は以上。次第2のその他について、事務局で何かあるか。

・ 事務局

事務局からはございません。

- ・ **日向会長**

それでは事務局から  報告・事務連絡はあるか。

- ・ **事務局**

一点報告として、次回の開催は2月から3月くらいに開催と考えている。
テーマは検討中。日程調整とあわせて改めてご連絡をさせていただく。次回
が、このメンバーで開催する運営協議会の最後となる。事務局からは以上。

- ・ **日向会長**

長い時間になったが、令和7年度第2回運営協議会は閉会とする。